

【大学アンケート】2021年卒学生の「就活相談」は「オンライン対応」が最多。

就活相談は「減っている」が35.2%で、「増えている」を上回る。

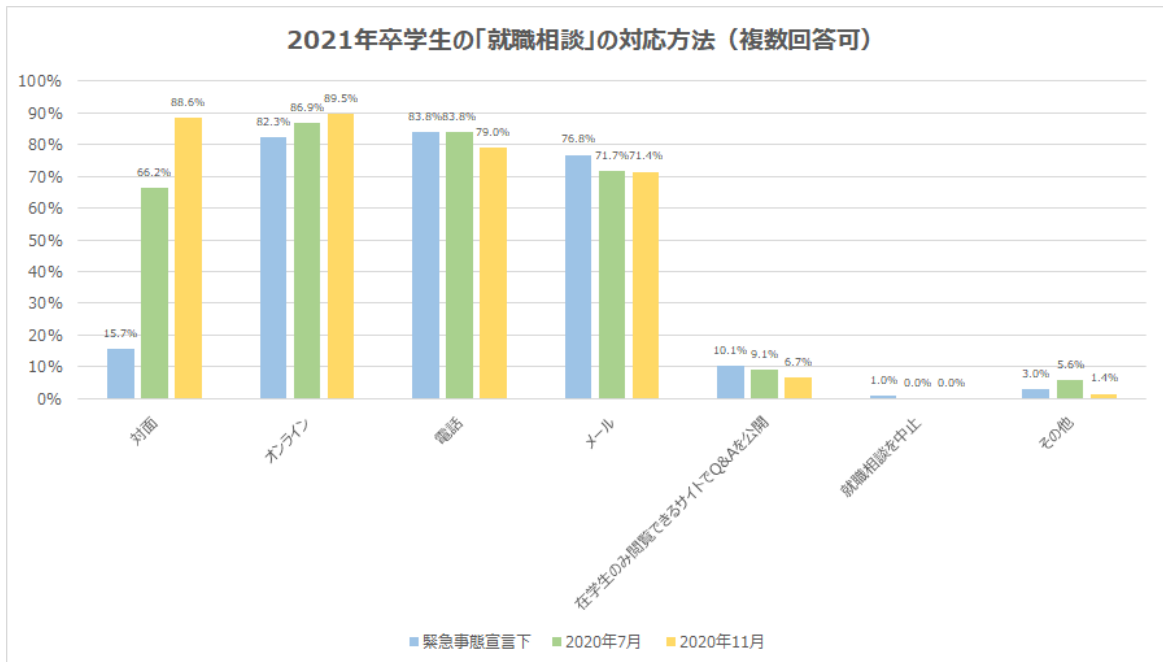
学生の「オンライン疲れ」を指摘する声も。

株式会社学情（本社：東京都中央区・大阪市北区／代表取締役社長：中井清和）は、新型コロナウイルスの感染拡大や入構制限、授業のオンライン化を受け、大学キャリアセンターの「就職支援」に関するアンケートを実施しました。2020年11月時点の「就活相談」の対応方法は、「オンライン」が89.5%で最多、次いで「対面」88.6%と続きます。「対面」で相談に対応する大学は、緊急事態宣言下では15.7%に留まっていたものの、緊急事態宣言解除後、「対面」での相談を実施する大学も増加していることが分かります。「就活相談」の件数は、「減っている」が35.2%で、「増えている」を上回りました。大学キャリアセンターの就職指導担当者からは、「コロナ禍でオンライン授業になり、キャンパスに通う機会が減っている。キャンパスに来る機会がないと、ついでに相談しようともなりにくい」「オンラインでのコミュニケーションは、明確な目的や具体的な相談内容がないと難しい。オンライン疲れをしている学生もいる」などの声が挙がっています。

【TOPICS】

- (1) 「就活相談」の対応方法は「オンライン」が最多。緊急事態宣言解除後は「対面」も増加の傾向
- (2) 「対面」「オンライン面談」「電話」「メール」「動画配信」など様々な方法で就職支援を実施
- (3) 「就活相談」は「減っている」35.2%が、「増えている」23.8%を上回る
相談減少の理由は「入構制限・オンライン授業により、キャンパスに通う機会が減っているから」

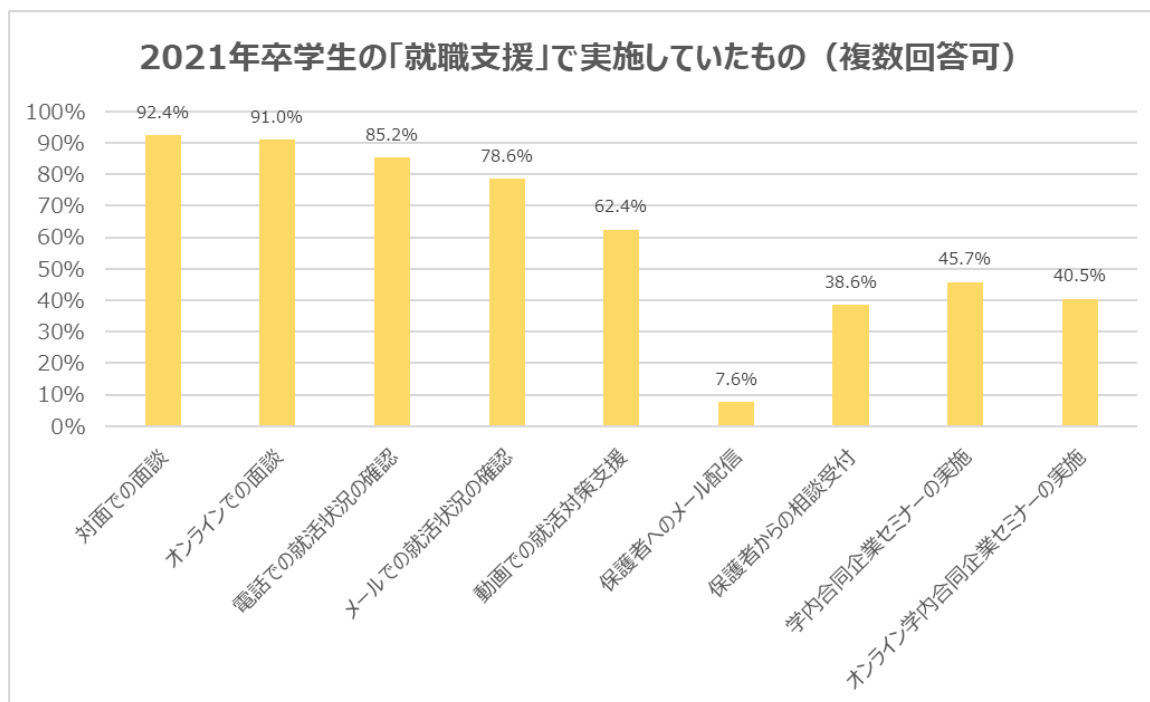
(1) 「就活相談」の対応方法は「オンライン」が最多。緊急事態宣言解除後は「対面」も増加の傾向



2020年11月時点の「就活相談」の対応方法は、「オンライン」が89.5%で最多、次いで「対面」88.6%と続きます。「対面」で相談に対応する大学は、緊急事態宣言下では15.7%に留まっていたものの、2020年

7月は66.2%、2020年11月は88.6%まで増えており、緊急事態宣言解除後は、「対面」での就職相談を実施する大学が増加傾向にあることが分かります。

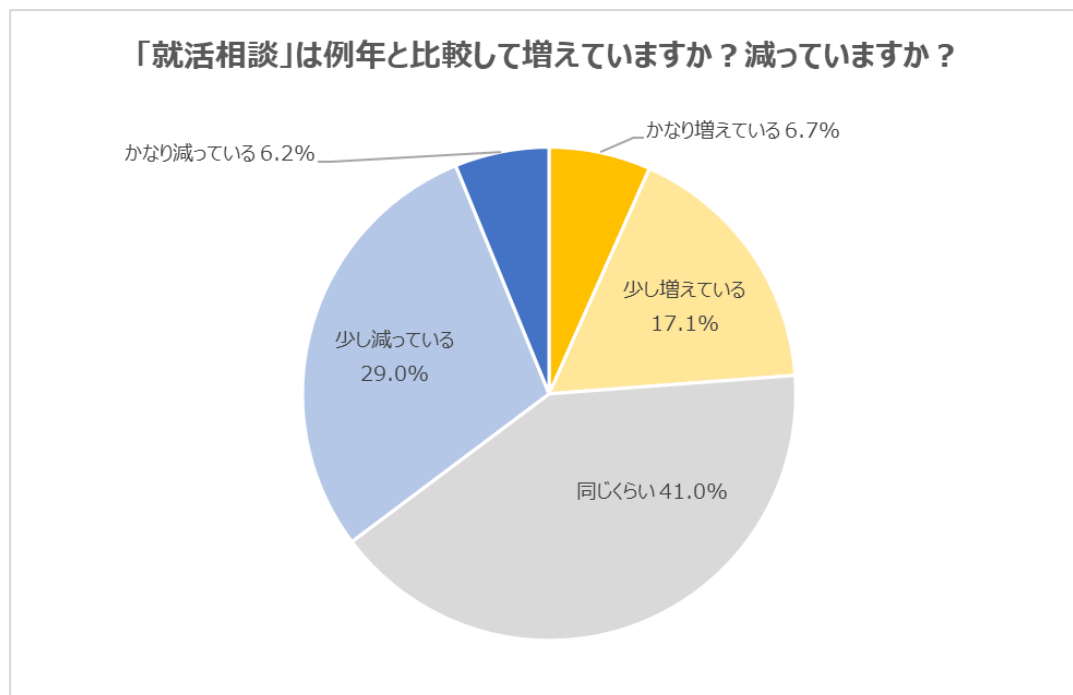
(2) 「対面」「オンライン面談」「電話」「メール」「動画配信」など様々な方法で就職支援を実施



「就職支援」で実施していたものについては、「対面での面談」92.4%、「オンラインでの面談」91.0%、「電話で就活状況の確認」85.2%、「メールでの状況確認」78.6%、「動画での就活対策支援」62.4%など、様々な方法で就職支援を実施している大学が多いことが分かります。「保護者からの相談」を受け付けている大学も38.6%に上りました。また、「オンラインでの面談」「動画での就活対策支援」「オンラインでの学内合同企業セミナーの実施」は、新型コロナウイルス感染拡大を受け、今年度初めて開始したという大学が大半を占めました。

(3) 「就活相談」は「減っている」35.2%が、「増えている」23.8%を上回る

相談減少の理由は「入構制限・オンライン授業により、キャンパスに通う機会が減っているから」



「就活相談」は「かなり減っている」「少し減っている」が 35.2%で、「かなり増えている」「少し増えている」23.8%を上回りました。相談が「減っている」とした大学キャリアセンターの就職指導担当者からは、「コロナ禍でオンライン授業になり、キャンパスに通う機会が減っている。キャンパスに来る機会がないと、ついでに相談しようともなりにくい」「オンラインやメールでの相談は、あらかじめ相談内容を具体的に決めなければならず、漠然とした不安などを相談するには不向き」「オンライン疲れをしている学生がいる」などの声が寄せられました。一方、相談が「増えている」とした大学キャリアセンターの就職指導担当者は、相談が増えている理由として「Web 面談など例年とは異なる対応が求められているから」「例年よりも内定を獲得できていない学生が多いから」としています。

■調査概要

- ・調査対象：全国の大学キャリアセンターの就職指導担当者
- ・調査方法：Web 上でのアンケート
- ・調査期間：2020 年 11 月 24 日～12 月 1 日
- ・有効回答数：210 件

東証一部上場

学情

